

ギコンくん  
が  
いく

## 特許庁庁舎のレイアウト



こんにちは、ギコンくんです。このコーナーでは、特許庁での気になるトピックを紹介しています。今回は、特許庁庁舎のレイアウトの技アリ話をお届けします。

おや、ギコンくん！ 元旦に特許庁に来るとは、何か急用かのう？

「いえ、いつもお世話になっているコレじいさんに年始の挨拶に参りました」

ほっほっほ。そんな気を使わんでも良からうに。でもわざわざ来てくれたので、お年玉代わりにためになる話でもしてやろうかのう。

「出来ればお年玉下さい！」

ふむ。何の話が良いかのう。そうじゃ、この特許庁庁舎の話なんぞどうじゃ？

「…はい、良いですね」

お主、何か急に暗くなったのう？ まあ、若さとは時に不安定なものじゃ。さて、この庁舎は平成元年に造られたのじゃが、当時の官公庁の建物としてはかなり珍しい造りになっておる。執務室は柱の少ない大空間じゃが東西に窓は無いであろう？ これは太陽光からの熱負荷を抑えるために東西の窓から執務室を隔離し、その東西には廊下や面接室やエレベーターを配置してあるためじゃ。

「へーっ」

廊下を通るときには、外の景色を眺めてリラックスして貰いたいとの意図もあるのじゃが、無論、外部の人が無闇に執務室を横断しないようセキュリティも考慮した上でのレイアウトじゃ。そのため、庁外からのお客さんが通る通路はこの写真のように窓際が多く、明るい特許庁との印象を

与える効果もあるかも知れんものう。

「でも熱負荷を避けるなら、執務室は陽当たりの良い南側はダメなのではないですか？」

おや、なかなか冴えておるのう。だがもちろんそれも考慮済みじゃ。この建物の窓は、外壁面から内側に奥まって造られているじゃろう？ 比較的急角度な南からの陽射しは、その外壁に遮られて窓には入り込まないよう設計されておるのじゃ。

「なるほど！ だから窓が内側に凹んでいるんですね」

そうなのじゃ。窓の外側を掃除する時には、凹んだ部分に乗って歩けるので屋上からわざわざゴンドラを吊るす必要も無いしものう。

「良く考えられているのですね。しかしコレじいさんは何でも良くご存知ですね」

なに、当時建設に携わった方々の話が聞こえたことがあって単なる受け売りじゃよ。

「他にもこの庁舎についての逸話はあるのですか？」

もちろん面白いものはたくさんある。例えば、「定礎」の碑の後ろには庁舎の図面が仕舞われていたり、屋上のフェンスの見えない部分には工事に携わった人たちの名前が書いてあったり、このロビーの床が余りに滑りすぎるため、竣工直前に徹夜で紙やすりを掛けたことがあったり、敷地のどこかにタイムカプセルを埋めてあったりと、語り尽くせぬほどあるのじゃ。

「パテッ！ タイムカプセルには何が入っているのでしょうか？」

ふむ。そこまではワシも知らぬものう。何十年先かは分からぬが、この庁舎が取り壊される時には分かるじゃろう。

「果たして私はその時まで特許庁に居られるのでしょうか」  
ほっほっほ。それはお主の頑張り次第じゃわい。ほれ、お待ち兼ねのものじゃ。

「パテッ！ ありがとうございます！」

(文：特技懇編集委員会)

